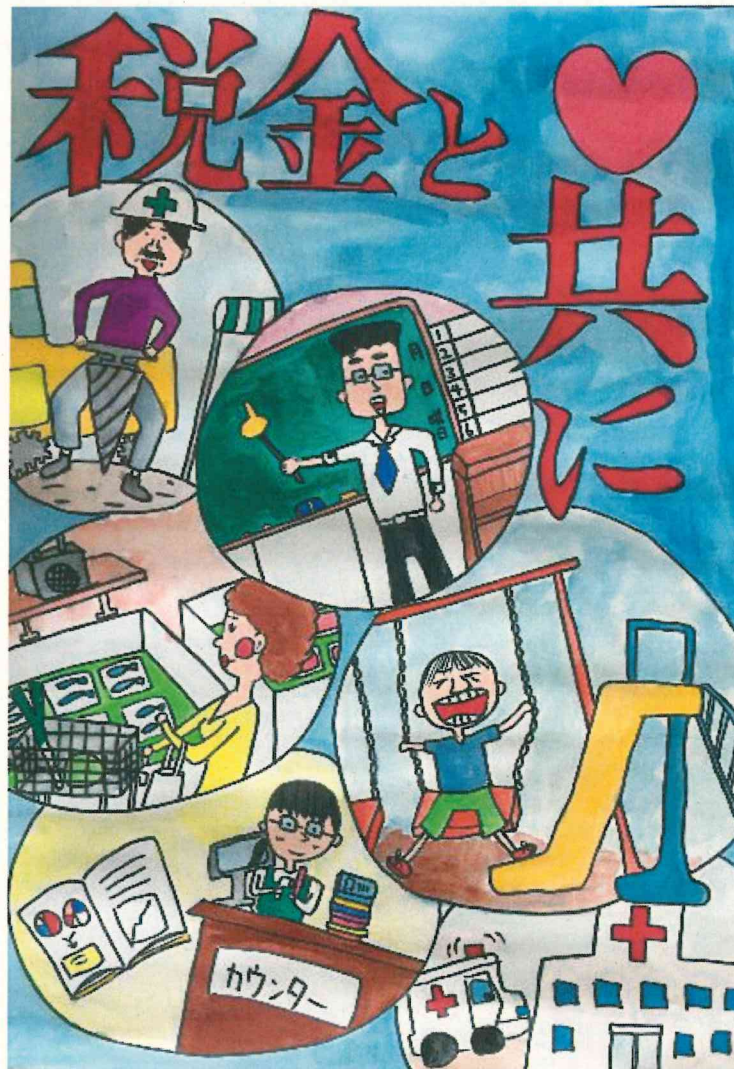


平成28・29年度  
鹿児島県租税教育研究委嘱校

# 租税教育の実際



【平成29年度 始良・伊佐地区租税教育推進協議会長賞】

始良市立山田中学校

# 目 次

## 〇はじめに

1	始良市の概要	1
2	校区の概要	1
3	学校の概要	1

## I 研究の概要

1	研究主題	2
2	主題設定の理由	2
3	研究の仮説	2
4	研究目標	2
5	研究組織	2
6	研究の経過	3

## II 研究の実際

1	総合的な学習の取組	
(1)	租税教室	4
(2)	税に関する調べ学習, 一日学習日	6
2	各教科	
(1)	国語科	10
(2)	社会科	12
(3)	美術科	15

## III 研究のまとめ

1	生徒の実態	17
2	成果と課題	20
3	おわりに	20
4	研究同人	20



## ○ はじめに

### 1 始良市の概要

本市は平成22年3月23日に、加治木町・始良町・蒲生町の3町が合併して誕生した。東西23.7km, 南北24kmに広がり、面積は231.25km<sup>2</sup>で、県総面積の2.5%を占めている。

気候は温暖で、年間平均気温は17℃前後。年間平均降雨量は約2200mmで大半が6～9月に集中している。

薩摩半島と大隅半島の分岐点、県本土のほぼ中央に位置し、南は県都鹿児島市、西は薩摩川内市、東は霧島市に隣接している。空港や高速道路など交通が発達しており便利で住みやすく、平成29年10月現在で約7万7千人が居住している。

龍門滝や蒲生の大楠など豊かな自然や山田の凱旋門などの文化財にも恵まれている。

### 2 校区の概要

本校は始良市役所から北西に6km, 旧始良町の中央北部に位置する。北は薩摩川内市、東は旧加治木町、西は旧蒲生町に隣接している。昭和63年に北山中学校を統合し、山田小、北山小、三船小校区の一部を校区としている。

山間の田んぼという意味で山田となったと考えられているが、古い時代の文書には記録がない。1555年(天文24年)頃の文書に初めて「山田」という地名が表れている。

鹿児島が誇るアーチ式の石橋技術を応用して造られた「山田の凱旋門」や西南戦争で敗走中に休憩したとされる「西郷隆盛の腰掛け石」など、貴重な文化財も多い。

本校近くを通る県道40号線は最近の整備により、鹿児島空港まで車で20分程度になり、交通は便利である。

### 3 学校の概要

本校は、生徒数31名(4学級, 特別支援学級1学級を含む), 職員数16名, 創立71年の歴史と伝統を誇る小規模校である。

「心豊かで、進んで学び、自ら鍛える生徒の育成」を教育目標とし、自立を促す学校経営の視点として

視点①: 一人一人の生徒に光を当てる

視点②: 一人一人の生徒を磨く

視点③: 一人一人の生徒が主体的に行動できる意欲を伸ばす

視点④: 主体的に行動できる生徒たちが協働して何かを成し遂げることができ  
る集団に高める

を掲げ、「友愛」「錬磨」「向学」の校訓から「チャレンジスクール」を合言葉に、小規模校のよさを生かし、農業体験学習やかかし制作などの山田ならではの体験活動を中心に、生徒が生き生きと輝く学校づくりに取り組んでいる。

生徒会活動では、朝の清掃活動、校外美化活動や熊本地震などの災害に対する義援金募金活動等、ボランティア活動に力を入れて取り組んでいる。

部活動では、バドミントン部と吹奏楽部の2つの部があり、少ない人数ながらも、熱心に活動している。

# I 研究の概要

## 1 研究主題

税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識や理解を深め、社会の一員として主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。

## 2 主題設定の理由

鹿児島県租税教育推進協議会によると、鹿児島県における租税教育のねらいは、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てること」と示されていた。

そこで、本校の生徒の現状から、租税教育を通して税に関する興味・関心を高めるとともに、家庭や地域と連携を図りながら、正しい知識や理解を深めることで、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成することができ、本校の教育目標「心豊かで、進んで学び、自ら鍛える生徒の育成」を達成することができると考え、研究主題を設定した。

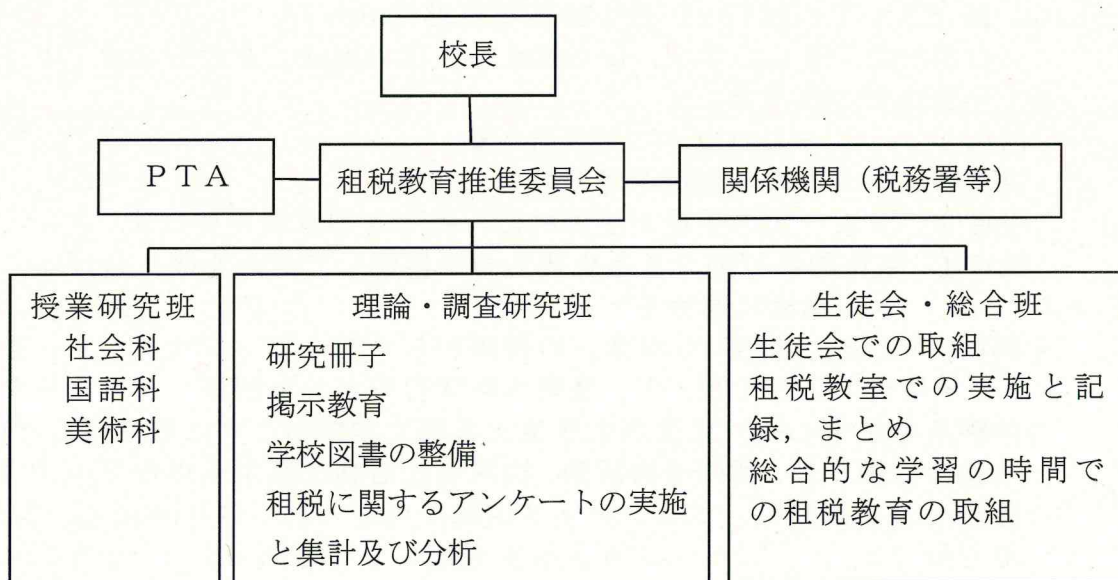
## 3 研究の仮説

各教科や総合的な学習の時間、生徒会活動、その他の教育活動で租税教育を取り入れることで、税に関する興味・関心を高め、正しい知識や理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成することができるのではないか。

## 4 研究目標

- (1) 税に関する興味・関心を高める。
- (2) 税金の使い道について正しく理解する。
- (3) 身のまわりのものと税とのかかわりを知ることで、公共物を大切にす  
る態度を養う。
- (4) 家庭や地域との連携を図り、租税教育の推進を図り、人生を豊かにす  
る。

## 5 研究組織





## 6 研究の経過

### (1) 1年目（平成28年度）

月	内 容
4月	研究委嘱を受ける
5月	研究主題・計画の決定，班分け，担当教師の研修
6月	アンケート実施，研究方法の決定，第1回租税教室開催
7月	学期の反省
8月	「税の作品」応募（国語科，美術科）
9月	「税の作品」出品（国語科，美術科）
10月	各班で調査活動
11月	租税教育研究会への出席，「税の作品」表彰
12月	家庭教育学級（租税教室）開催，学期の反省
1月	テーマの取りまとめ
2・3月	初年度反省，次年度の活動検討

### (2) 2年目（平成29年度）

月	内 容
4月	本年度の計画策定（第2回租税教室，一日学習日）
5月	各班の内容検討会，第2回租税教室開催
6月	一日学習日の見学場所決定
7月	一日学習日開催，アンケート実施，学期の反省
8月	「税の作品」応募（国語科，美術科），研究のまとめ
9月	「税の作品」出品（国語科，美術科）， 現在までの問題点の検討
10月	校内発表会及び租税教育研究会準備
11月	校内発表会開催，租税教育研究会での発表， 「税の作品」表彰
12月	学期の反省
1・2月	委嘱結果の取りまとめ

## II 研究の実際

### 1 総合的な学習の時間

#### (1) 租税教室

平成28年度から平成29年度の研究委嘱期間に下記の目的を設定し、租税教室を実施した。

##### 〈目的〉

- 我が国の租税制度について理解を深めるとともに、税について興味・関心を持とうとする。
- 身の回りの生活と税との関連を理解し、よりよい社会を築こうとする態度を育む。

#### 第1回：税理士による租税教室（平成28年6月30日実施）

##### 〈内容〉

- ・ 税に関するクイズ
- ・ 消防自動車について
- ・ 一億円のレプリカを用いて



【講話を聞く生徒】



【1億円のレプリカをもつ生徒】

#### ◇ 生徒の感想

税金とはどんなところに使われているのかと考えてみると、身の回りにたくさんありました。税金がなかったら学校に行くこともできないと知りびっくりしました。税金はあまり払いたくないなと思っていたけれど、とても必要なものなんだと分かりました。みんなが平等にということがキーワードであるということも分かりました。

色々なところに税金が使われていることを家族にも話したいです。今まで、消費税などにいいイメージがなかったけれど、いいなと少し思えるようになりました。税金は色々なところに役立っていてすごいと思います。税金について知ることができてよかったです。

税のことについてあらためて知ることができました。病院での手当てが楽になることや、税が50以上あることや1億円のレプリカの大きさに驚きました。男子がレプリカを重そうに持っていました。税は、なんとなく悪いイメージでしたが、良いイメージに変わりました。

税には色々な役割があると、はじめて知りました。こうやって当たり前のように学校に来られるのも、すべて税のおかげだと分かりました。そして、公共のものは、たくさんのお金を使って建てていることが分かりました。これからは、税を意識して生活したいです。



## 第2回：始良市税務課による租税教室（平成29年5月11日実施）

<内 容>

- ① 始良市の税の使われ方
  - ・税金とは
  - ・クイズー税の成り立ち，昔の税ー
  - ・始良市の税金の使われ方
  - ・税金がなかったら
- ② 質疑応答
  - ・①の内容についての質問
  - ・税金全般についての質問



税金はぼくたちの身近なところで使われていることを初めて知りました。税金がなかったら，救急車や交番にお金がかかったり，医療費が自己負担になったりしてしまうことも初めて知りました。税金は，予防注射やお年寄りの年金，健康診断などいろいろなことに使われていることも知りました。教科書にも税金が使われていたことも，学べてよかったです。

税金は，自分が生活している中にたくさんあって，支えられているんだなと思いました。火葬場がつくられたり，大楠が保護されたりして，始良市が活性化しているのだったら嬉しいです。中学生の教育費が1年で100万近く，3年で300万近くもあり，私は税金のおかげで生活できているなと感じました。



今回，初めて租税教室を受けました。昔は犬税，馬税，うさぎ税などの初めて聞く税金もあって，とても驚きました。公共施設なども全て私たちの税金で作られていることも知りました。これから身近にある税金はほかにも何に使われているのか，身のまわりのことにも目を向けていきたいです。



## (2) 税に関する調べ学習，一日学習日

### <目 的>

全校生徒が30名程度の少人数であることを生かし，3学年を縦割りのグループで調べ学習を行わせ，素朴な疑問や調べてみたいアイデアを出し，互いの税に関する興味・関心を高め，知識や理解を深める。

一日学習日での見学を通し，調べ学習の課題意識を高める。

### <内 容>

- ① 6つのテーマより，全生徒を6つの班に分け，テーマに沿った調べ学習を行う。(全6時間)
- ② 調べた内容を広幅用紙2枚程度にまとめ，相互発表を行う。(2時間)
- ③ 一日学習日において，これまでの学習をふまえて，税金に関わる場所を見学したり，話をうかがったりする。

### < 税に関する調べ学習 >

- ① 班ごとにテーマを決定



- 1 班ごとに，テーマに沿って調べる内容を検討，確認をします。

- ② 時間ごとの活動の様子



- 2 班で決めた分担に従って，パソコン，書籍，新聞などを使って調べます。



- 3 5分前には集合し，班ごとに評価カードを記入します。評価カードは班長が集め，担当の先生に持っていきます。

お互いの活動を評価するために，各自の調べた内容を見せ合い，評価を記入します。

最後に自己評価を記入します。





③ 発表会



1班 税の歴史



2班 鹿児島県の税の使い方



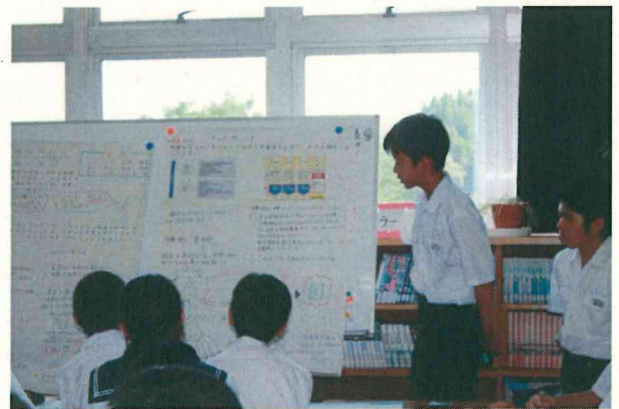
3班 最近話題のふるさと納税って？



4班 外国の税はどうなっている



5班 始良市の税の使い方



6班 消費税

< 生徒の感想 >

- ・ 始良市に、税がたくさん使われていることが分かり、身近に思えた。外国の税についてもっと知りたい。
- ・ 普段は気にしない税でも、こうやってみるとたくさんの種類があって深いなあと思いました。そして、国ごとで違うので複雑だということがわかりました。
- ・ 税とはいろいろな人のために大切に使われていることが分かった。自分も税金をしっかりと払いたいと思いました。

< 一日学習日 >

一日学習日「租税教育」（総合的な学習の時間）

1. 目的

共通テーマ「租税教室」に関する体験活動を行い、課題意識を高める。

2. 期 日

2017年7月11日(火) 雨天決行

3. 参加者

1年生	7名	}	計41名
2年生	14名		
3年生	11名		
引率者	9名		

4. 目的地

(1) 鹿児島県庁

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号

行政庁舎電話番号(代表): 099-286-2111

(2) 日本銀行鹿児島支店

〒890-0052 鹿児島県鹿児島市上之園町5番15号

TEL 099-259-3220 FAX 099-284-1128

5. 日 程

8:15	体育館前 集合, 健康観察, 出発式
8:30	山田中学校 発
9:20	鹿児島県庁 着
9:25 ~ 9:50	鹿児島県庁舎 見学(県の担当者の案内あり)
10:00 ~ 11:00	かごしま県政セミナー 「県財政改革のとりくみ」
11:10 ~ 11:30	鹿児島県庁議会庁舎 見学 (県の担当者の案内あり)
11:30 ~ 12:30	昼食 県庁内芝生 雨天・降灰時→県庁2F会議室
12:35	鹿児島県庁 発
12:55	日本銀行鹿児島支店 着
13:00 ~ 15:00	日本銀行鹿児島支店 見学 (2班に分かれて見学)
15:10	日本銀行鹿児島支店 発
16:00	山田中学校 着, 解散式





初めての県庁にビックリ  
です。

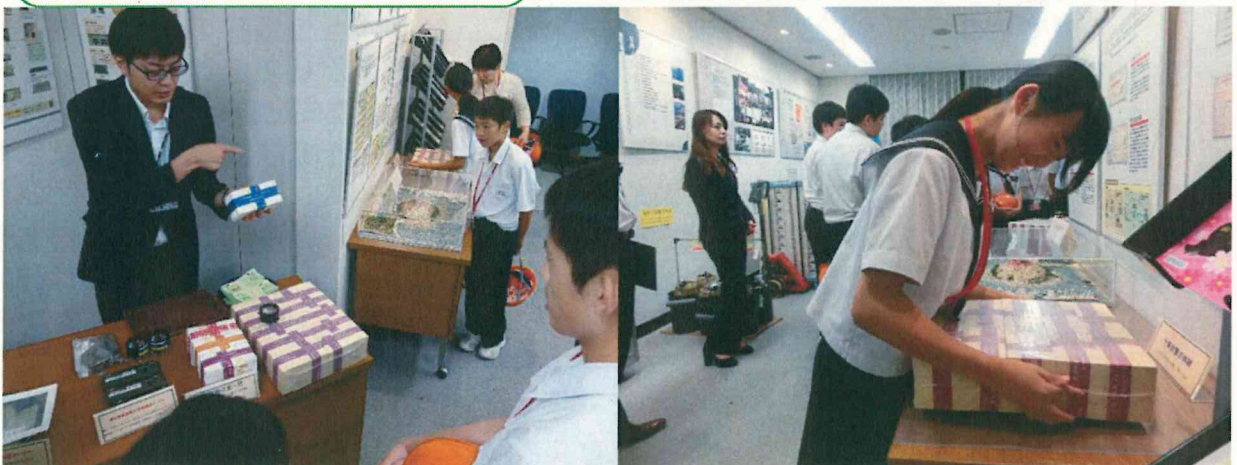
まずは県庁で県政セミナー。県  
のDVDを視聴し、「鹿児島県政  
出前セミナー」で『県政改革の  
とりくみ』の講座を受講しまし  
た。  
その後、庁舎内を見学しまし  
た。



最後に議会庁舎を見学しました。



午後は、日本銀行鹿児島支店  
で日本銀行の役割を学習し、店  
内を見学しました。





## 2 各教科

### (1) 国語科「税に関する作文」

#### 〈目的〉

税についての学習を生かし、学んだことや考えたことを自分の言葉で作文としてまとめさせ、税や社会のありかたについて考えていこうとする態度を養う。

#### 〈実際〉

夏休み課題として全校生徒に取り組ませた。

#### ① 1学期末に学級ごとに授業で書き方の指導

平成28年度は、1学期の租税教室の内容の振り返りや、自分の税に対するイメージを挙げさせた。また、「税に関する作文」の入賞作文集から例を挙げて、書く内容を考えさせた。

平成29年度は、2回目の租税教室、一日学習日、総合的な学習での班ごとの学習など、これまでの税の学習を振り返らせ、自分の考えを中心に書くように指導した。

#### ② 8月の出校日に作文の提出

平成28年度は8月21日に提出させたが、9月の清書までに出せなかった生徒もあり、作文をじっくり練り上げる時間が足りなかった。平成29年度は、7月下旬に図書室等で個別に作文指導を行い、8月1日に提出させた。

#### ③ 2学期初めに清書し、「税に関する作文」への応募

国語辞典を使いながら国語の授業の中で清書をさせた。生徒の作文は、国語科で目を通し、アドバイスを書き込んだ。少人数であるので、どの学年も清書させながら質問も受け、同時に指導を行った。

#### ◇平成28年度の生徒作文より抜粋

#### 「税金と私たちの暮らし」

3年生女子

みなさんは税金がどんなところに使われているのか知っていますか。私はすぐに思いつきませんでした。

まず、そもそも税金とはどのようなものなのでしょう。私がすぐに思いついたのは「消費税」でした。租税教室のときにみんなからいくつか税の種類がわかりました。そこで私は税金は50種類以上あることを初めて知り、驚きました。また、税金は一箇所に納めているのではないそうです。「いろんなことに税金がかかっているけれど、払うのは嫌だなあ。」と、私はこのときは思っていました。(中略)このようなことを知ると、税金が暮らしの役にたっていることがよくわかりました。もしも税金がなくなったらと考えてみると、普段通りの生活ができないことに気付きました。学校に私たちは当たり前のように来ているけれど、それはたくさんの人に支えてもらっているからだ、ということを知りました。だから、当たり前ではなくて幸せなことなんだということを忘れないで過ごしていきたいです。(中略)最初は税金を払うのは嫌だなあと思っていたけれど、いろんなことに関係していることを知って、納税は大切だということを知りました。納税の大切さを理解するためには、どんなことに役立っているのかを知ることが大切だと思います。私は、租税教室を通して大切さを知り、税金に対する考え方が変わりました。(平成28年度始良地区貯蓄納税組合署長賞)

28年度は、初めての租税教室で教えてもらったことを書いている生徒が多かった。まず知ることの大切さをこの生徒は作文に書いている。



◇平成29年度の生徒作文より抜粋

「税と共に生きる」

2年生男子

僕らの学校、山田中学校では、今年総合的な学習で「税」について学ぶことになりました。(中略)調べて改めて思ったことがあります。「僕たちは、税について基本をちゃんとわかっていない。」

消費税を調べるための基本、「そもそも税とは何か。」そこから調べなくてはなりません。だれから集めているのか、どのくらい集まっているのか、どのくらい使っているのか、そしてどこで使っているのか、誰のために使っているのか、調べれば調べるほど知らないことが噴水のように出てきました。(中略)僕たちは、僕たちの生活を成り立たせるため、税と共に生きていかななくてはなりません。税についてまだまだ知らないことは多いけれど、これからたくさん学びたいです。

29年度になると、総合的な学習で自分たちが積極的に学び、考えたことを書いており、学習が深まったことがわかる。

推敲が必要な部分は多いが、自分の言葉で考えて書こうとする生徒が多かった。時間をかけて税について学習し、まとめをしたり、発表・評価をしたりする中で、税に対する自分なりの捉え方がそれぞれ出てきていた。

「税が作り出す生活」

2年生男子

「税」がどれだけの人の命や生活を支えてきたか、知っていますか。

今年は、局地的豪雨などの影響でたくさんの人々がたいへんな被害を受けました。僕が見たテレビや新聞でも、地域のみんなで助け合い、必死に命をつないでいる様子が伝わりました。「こんな大きな災害があったときにも、税が使われて、人の命を救ったり、安定した生活への支援をしたりしているのだな。」と、僕は思いました。(中略)税金は、生きている人全員を支える「共同生活の会費」なのだと思います。これからの生活で、その「会費」でできているものを大切に使いたい、そして共同生活者の一員として「会費」をしっかり払っていきたいです。今払っているその「会費」は、自分のもとへ還ってきて役にたつものなのですから。

〈まとめ〉

国語科の課題作文としての「税に関する作文」だったが、事前の学習(租税教室、一日学習日、総合的な学習での班活動)によって、作文の土台となる「書きたいこと＝自分の考えたこと」があったので、生徒たちも抵抗なく取り組むことができた。練り上げの中で、自分は何を考えたか、税をどう捉えるかという視点が生徒たちの中に生まれてきた。その時間が作れたことが国語科としての成果だと感じた。

税について知らない、興味がない生徒にとっては、この課題作文はとても難しく感じるらしく、例年自由選択の課題として出してきたが、税についての紹介で終わっている作品が多かった。社会と自分自身のつながりについて目を向けるような課題設定が必要だと、今回の「税の作文」への取組を通して改めて感じた。



## (2) 社会科「第2学年（地理的分野）における実践」

### ① 指導案

日時 2017年6月23日 6校時  
 場所 始良市立山田中学校2年教室  
 対象 山田中学校2年 14名

ア 単元名 地理的分野 第3章 日本の諸地域  
 第2節 中国・四国地方ー都市と農村の変化と人々の暮らしー

イ 単元の構想

#### ・ 教材観

地理的分野の基本は、どのような人々が、どのような自然環境の中で、どのように暮らしているのかなどの「地域のすがた」を理解させることにある。

その中で、本単元は、日本の諸地域の地域的特色をとらえるとともに、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色に気付かせたい。また、地域の特色ある事象を、ほかの事象と関連づけて考察することを通して、地理的な見方や考え方を育んでいきたい。

中国・四国地方の学習を通して、都市と農村の変化を人々の生活や産業などに関連付けて考察し、さらに、過疎・過密地域の抱える問題を具体的にとらえ、この解決が課題になっていることに気付かせたい。

そのうえで、租税教育の一環として、山田地域の活性化を通して、地域おこし・過疎対策について、自然環境や人々の生活、産業などに関連付けて自分なりに考えさせたい。また、学級として「山田おこし」の提言をまとめていくことで、班活動を通じて、他者に説明しながら、自分の考えをはっきりさせるとともに、他者の考えをできるだけ正確に理解して自分の知識を増やし、自分の考え方と人の考え方を比較して、それらを統合する力をつけていきたい。

ウ 指導計画（6時間）

時間	単元名	備考
1	中国・四国地方の概観・課題をつかむ ー都市との農村の変化の人々の暮らしー	
1	高齢化が進む農村と町おこし① 中国・四国地方の過疎地の課題と山田中校区の共通点を見つけ出す。 山田のいいところ・課題→エキスパート班ごとのテーマ決定	教科書:高齢化が進む農村と町おこし
1	高齢化が進む農村と町おこし② 中国・四国地方のとりくみから学ぶ。 エキスパート班ごとの調べ学習	
1	高齢化が進む農村と町おこし③ 中国・四国地方の課題の解決方法を探る。 ジグゾー班ごとに意見交換・質疑応答	
1 (本時)	高齢化が進む農村と町おこし④ 中国・四国地方の解決方法と新たな課題に気付く。 エキスパート班でのまとめと提言	
1	中国・四国地方のまとめ ー都市との農村の変化の人々の暮らしー	



エキスパート班テーマ

- ・ 自然
- ・ 交通
- ・ 暮らし
- ・ 文化・イベント



付箋に書きだして張ります。



グループごとに話し合い。

エ 本時の目標

- ・ 山田地域を例に， 地域おこしとそれによって引き起こされる現象のプラス面や課題について考え， 表現できる。
- ・ 他者に説明することで， 自分の考えをはっきりさせ， 自分の考え方と人の考え方を比較して， それらを統合することができる。

オ 本時の実際

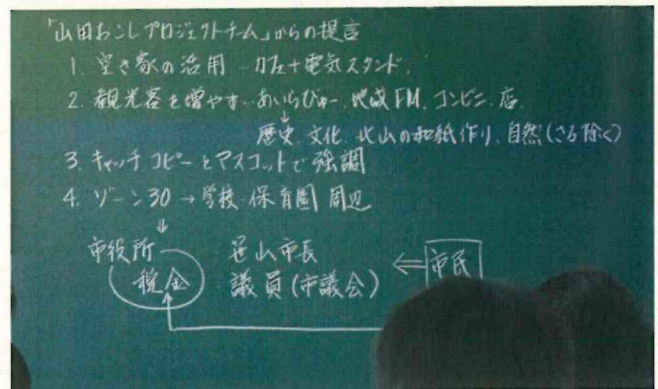
学習過程	時間	学習活動	指導上の留意点	資料など
導入	15	<p>0 徳島県上勝町の地域おこしを振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「山田おこしプロジェクト」チームとして， 提言をまとめよう</p> </div> <p>1 前時の活動を振り返り， エキスパート班で， 各ジグゾー班で出た意見や質疑を交換する。</p>	<p>活動の流れをホワイトボードで示す。</p>	<p>教科書 P198.199</p> <p>ホワイトボード</p>
展開	20	<p>2 エキスパート班から， 各班の課題解決のための， 「山田おこし」のための提言をまとめる。</p> <p>3 班ごとにホワイトボードを用いて， 提言を発表する。</p>	<p>2 ジグゾー班での， 交流をふまえてエキスパート班からの提言をとなるようにする。</p> <p>3 各班の課題だけでなく， 将来へ残していくものをどのように保護・保存していくかも発表させる。</p>	<p>これまでの活動資料</p> <p>ホワイトボード</p>
	10	<p>4 各班から出た提言を， 「山田おこしプロジェクト」チームの提言としてまとめる。</p>	<p>4 この提言が， 行政や議会へ陳情として採択されると， 市の事業となり， 予算が生じ， 税が使われることを説明する。</p>	
終末	10	<p>5 活動の振り返りをし， 各自自己評価をする。</p>	<p>5 活動全体を振り返り， 自分で考えたことや学んだことも記入させる。</p>	<p>評価カード</p>

② 生徒の感想

- ・ 山田について改めて考えてみたら、いろいろなことがわかった。
- ・ 改善するところが多くて、意外と難しかった。
- ・ 意外な意見があって面白かった。
- ・ いろいろな案を出せたので良かった。
- ・ みんなで意見を出し合う時に、自分もいろいろ言えた。
- ・ 自分の班の意見をしっかりと伝えることができた。みんなに伝わったと思う。
- ・ エキスパート班で、自分たちの案をしっかりとまとめ、他の班に伝えることができた。

< 課題 >

- ・ 自分たちの地域の良さ・課題に気付き、その解決について、提言としてまとめることができたが、その提言を実行するために、税が使われることにまでは思い至らなかった。また、この提言を生かすために、行政に届けるまでできなかった。



ジグゾー班からエキスパート班に戻って報告。



エキスパート班で問題点・解決策を提案。



班ごとに課題は異なります。



最後は班ごとに発表です。



### (3) 美術科「租税に関するポスター」

〈目的〉

税についての学習を生かし、学んだことや考えたことをもとに、自分のアイデアでポスターにまとめ、税について啓発していこうとする態度を養う。

〈実際〉

平成28年度・29年度の2年間、夏休み課題として全校生徒に取り組みさせた。

夏休み前の授業の中で、作品の完成イメージをもたせるために、これまでの受賞作品や参考作品を鑑賞させた。その後、税を意識した作品に仕上げるため、租税教室や「総合的な学習の時間」等で学んだ内容からテーマを考えさせた。ある程度の構成や下絵までは授業の中で取り寄せ、夏休みに仕上げさせた。作品は、地区租税教育推進協議会主催の作品展に応募した。その作品展で、平成28年度は3作品、平成29年度は2作品が入賞した。

【平成28年度】



【加治木税務署長賞】



【始良・伊佐税務協力団体長連絡協議会長賞】

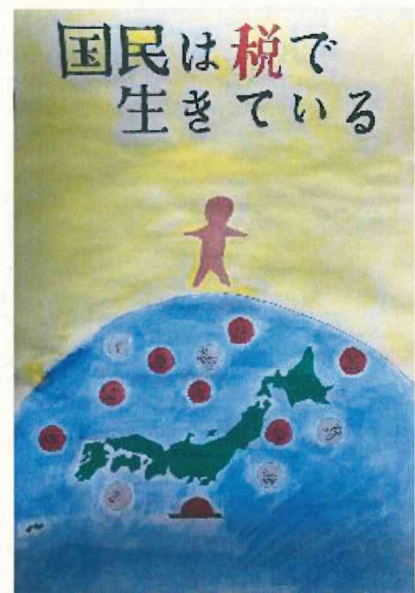


【佳作】

【平成29年度】



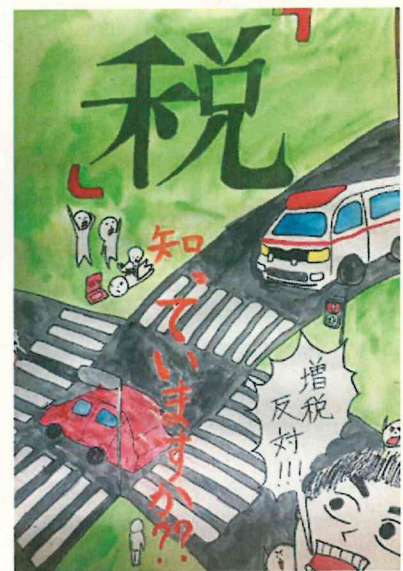
【佳作】



〈まとめ〉

2年間の研究を通して、租税教室、「総合的な学習の時間」等の学習により、作品の内容に深まりがみられるようになってきた。ポスターの中に、税金の使い道や大切さ等を盛り込み、内容の濃い作品が多くなってきた。また、美術の授業で学習したレタリングや構成を生かすこともできていた。

これら作品を制作するに当たって、個人でのアイデアづくりや生徒同士の意見交換の場面も見られた。また、商業施設や校内に掲示することによって、一般の方や生徒たちへの啓発にも役立てることができた。



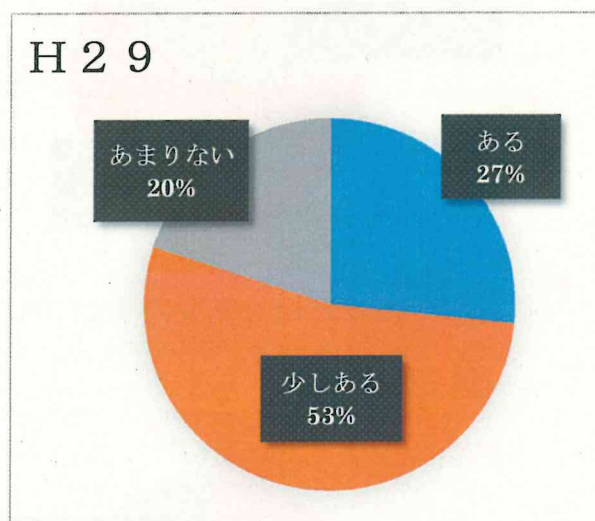
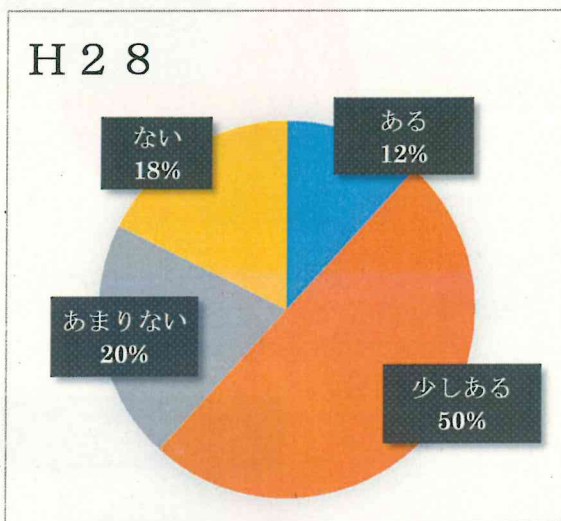


### Ⅲ 研究のまとめ

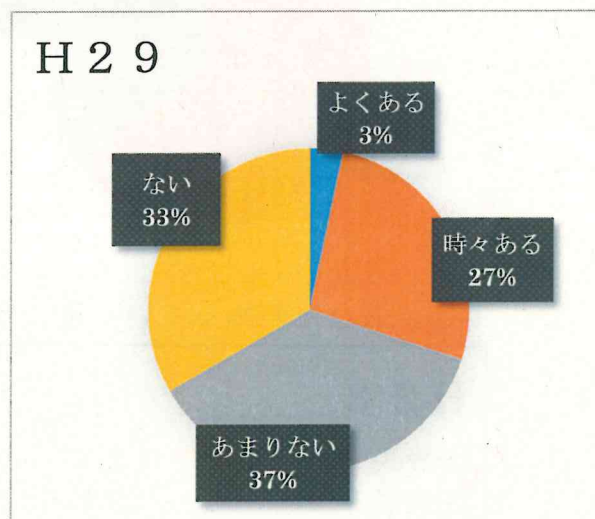
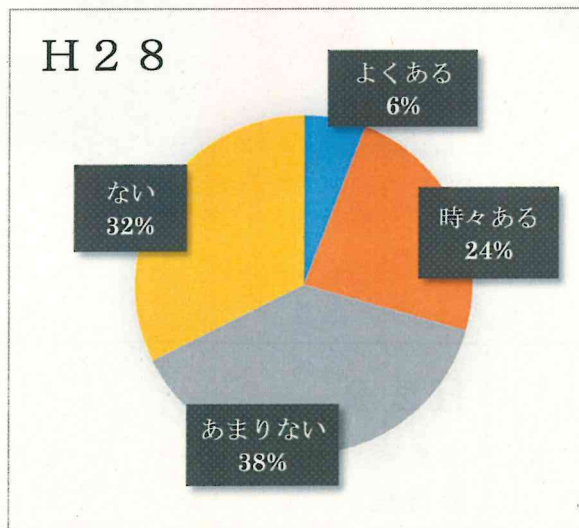
#### 1 生徒の実態（アンケート結果）

平成28年度と平成29年度の2回、実態調査として、税に関するアンケートを全校生徒に向けて実施した。

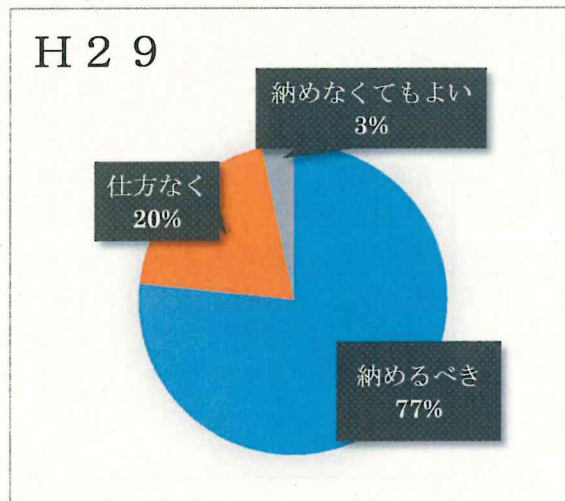
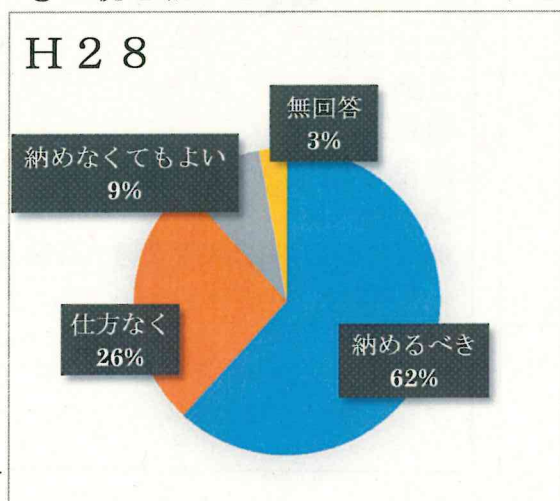
① あなたは、税について興味・関心はありますか。



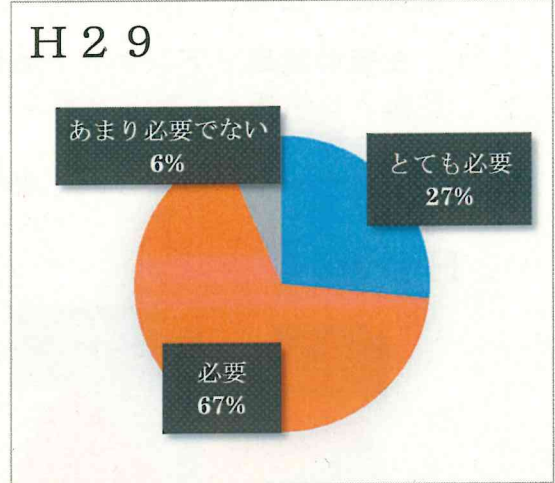
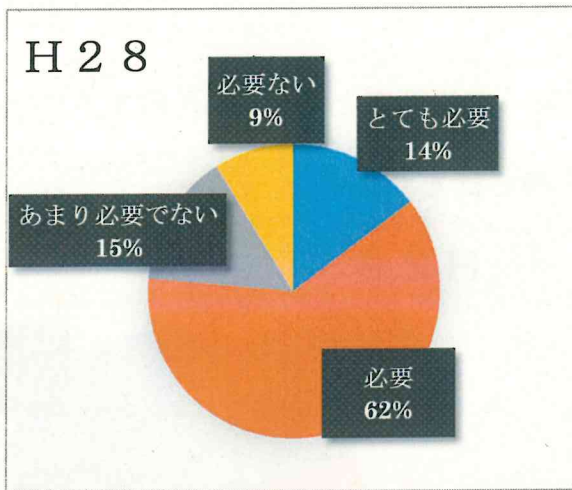
② 税について、家で話をすることがありますか。



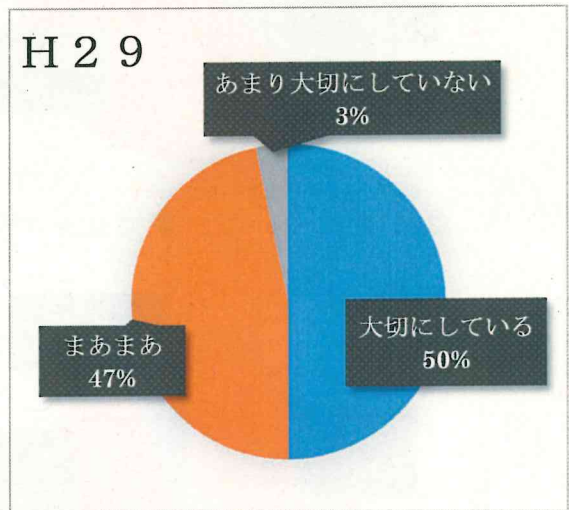
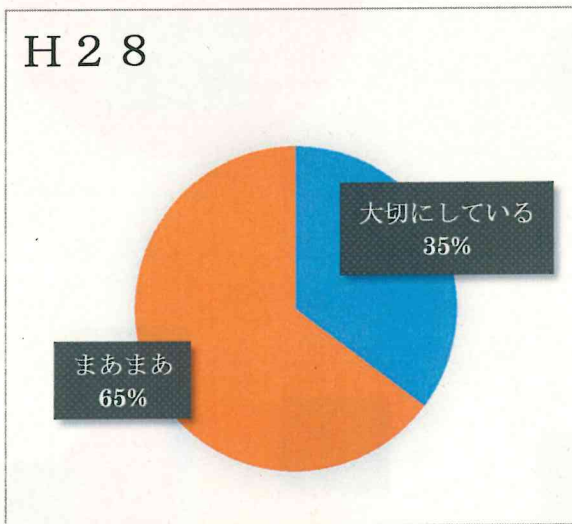
③ 税を納めることについてどう思いますか。



④ 税について学習することは、必要だと思いますか。



⑤ あなたは公共物を大切にしていますか。



⑥ あなたの知っている税には、どんなものがありますか。

**H28**

消費税	32名
住民税	9名
固定資産税	9名
自動車税	7名
国民税	7名
所得税	4名
法人税	3名
相続税	2名
土地の税	2名
ガソリン税	1名
遺産税	1名
ビール税	1名
温泉税	1名

**H29**

消費税	28名
所得税	11名
住民税	9名
ふるさと納税	9名
たばこ税	8名
自動車税	6名
酒税	3名
固定資産税	1名
法人税	1名

※以下3つは海外の税を調べた班の生徒が記入したもの

ポテチ税	3名
犬税	2名
ゲップ税	1名



⑦ 皆さんが納めた税は、どのように使われていると思いますか。

H 2 8		H 2 9	
学校の施設	・・・ 7名	学校施設	・・・ 13名
公共施設	・・・ 6名	公民館	・・・ 8名
道路の修理・整備	・・・ 6名	公園	・・・ 6名
建物	・・・ 3名	市立病院	・・・ 5名
社会福祉・年金	・・・ 3名	図書館	・・・ 5名
教科書	・・・ 2名	体育館	・・・ 4名
政治	・・・ 2名	道路の修理・整備	・・・ 3名
自然災害	・・・ 2名	年金・社会保障	・・・ 3名
公務員の給料	・・・ 1名	警察署	・・・ 2名
子ども手当	・・・ 1名	消防署	・・・ 2名
県や市の仕事	・・・ 1名	ゴミ処理費用	・・・ 1名
バリアフリー	・・・ 1名	浄水場	・・・ 1名
		防衛費	・・・ 1名
		自然災害	・・・ 1名

〈アンケート結果の考察〉

- ・ 税に対する興味関心が高まり、税の有用感を感じる生徒の割合が大きく増えた。
- ・ 納税意識を問う質問では、生徒の納税意識の高まりが回答に反映されている。77%もの生徒が「納めるべき」と回答している点から考えても、2年間の租税教育において、税の使われ方について学習してきた成果であるといえる。
- ・ 税の学習の必要性についても、94%の生徒が「税の学習が必要だ」と答えており、税の学習を通して得た成果を、生徒自身が実感しているものであるといえる。
- ・ 税の種類については、学習前はしっかりした名称で答えられなかったが、学習を通してより多くの種類の税を知ることができた。また、総合的な学習の時間において、外国の税金の種類や、昔の税金の種類についても調べ学習を行った生徒たちは、より印象的であった税を回答していた。
- ・ 税金の使われた方については、身近な生活の中で税金が使われていることを実感してきている様子がよく分かる。また、職場体験学習等を通して、ゴミ処理施設や消防署など生活を支える仕事についても目が向くようになってきた。
- ・ 公共物を大切にしようという意識は全体的には高まったが、「あまり大切にしていない」と回答した生徒もおり、今後も道徳等で公德心の指導とともに啓発していきたい。

## 2 成果と課題

### ① 成果

- ア 「税金は難しいもの」、「自分たちとは関係のないもの」と感じていた生徒が多かったが、税が自分たちの身近なところで使われていることを学習することで、関心が高まった。
- イ なぜ税金を払わなければならないかが分かり、納税の意識が高まった。
- ウ 始良市民の一員として、自分たちの住んでいる地域や校区、社会を納税者としての視点から見つめるきっかけになった。「こういう地域にしたい」、「こうしたら良くなるのでは」といったアイデアを出し、税金の使い道や社会参画に興味を持てた。

### ② 課題

- ア 28年度の家庭教育学級に出席した保護者については、興味深く受講できていたが、保護者全体へ啓発や生徒と保護者が家庭で話題にするなどの広がりが弱かった。学級通信や学校便りなどで、もっと積極的に取組状況を掲載して、生徒や保護者、地域にも関心をもってもらうようにしたい。
- イ この2年間の取組では、総合的な学習の時間などで、多くの時間を確保して行えたが、今後も租税に興味関心を持続させる体制を整備していきたい。

## 3 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、「税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識や理解を深め、社会の一員として主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する」を研究主題に、研究に取り組んできた。小規模校の良さをいかした縦割りの班や、学年を越えた学び合いが、税の理解を深めやすい学習になった。職員が研究班ごとに役割を分担し、協力して取り組むことができた。鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、加治木税務署、その他関係者の方々には懇切丁寧なご指導とご協力をいただき、心からお礼を申し上げたい。

## 4 研究同人

平成28年度		平成29年度	
校長	森園 太介	校長	森園 太介
教頭	福園 和幸	教頭	西 眞智子
教諭	竹井 智子, 重留 真理子 實田 逸郎, 羽生 秀 田島 拓郎, 山下 真司 田中 正史, 赤瀬川 隆	教諭	竹井 智子, 重留 真理子 瀬戸口 潤, 竹下 誠浩 田島 拓郎, 田中 正史 赤瀬川 隆
養護教諭	下園 敏枝	養護教諭	下園 敏枝
事務職員	岸本 裕成	事務職員	岸本 裕成
市費職員	福永 千紘, 岩下 博文	市費職員	福永 千紘, 佐々木 逸男 鍋倉 なぎさ, 北迫 美智代
非常勤講師	寺原 早苗	非常勤講師	寺原 早苗